

村上幸雄

— その生涯と失われた作品に関する新事実 (1) —

森田 浩章

Murakami Yukio:

New Light on His Life and on Some of His Lost Works (1)

Hiroaki MORITA

はじめに

村上幸雄は幼児の教育に生涯をささげた幼児教育者で、子どもと劇、子どもと遊び、子どもと児童文学においてたくさんの作品を残した。しかし、その「仕事」、すなわち幼児教育における評価はなされぬまま忘れさられていた。

私は1976年大学を卒業し、財団法人・文民教育協会・子どもの文化研究所に入り、そこで村上幸雄と出会った。すでに幼児における演劇教育の大家であった村上は、子どもの文化研究所で行われていた幼児教育者のための現職教育「子どもの文化学校」にて、影絵劇やペープサートを教えていた。私は大学時代に児童文化研究会のメンバーであったことから、クラス担任となり、村上の助手をつとめた。

私が学生時代に児童文化研究会でやってきたことは、児童文学の研究、創作と子ども会活動であった。その子ども会のなかでペープサートはつくったことがあった。けれども、影絵劇などの演劇はやったことがなかった。村上は、基礎・基本の技術から教え方（指導方法）まで細かく指導してくれた。もともと工作・絵画等は好きであったので、比較的たやすく学びとることができた。村上は子どもの文化学校だけではなく、公立保育園や私立幼稚園の研修会にも出向き、よく影絵の指導をしていたので、私はそこにも参加し、助手をつとめた。

さて、子どもの文化研究所では、保育のアイデアシリーズという保育の実技書を企画し、その中にペープサートや影絵劇が入っていた。私はその出版に対して編集を行っていたのだが、村上は「影絵は君がやれ」と言い、制作方法から演じ方、台本まですべてをまかされてしまった。周囲からは無理ではないかという声もあったが、村上は「いや、もう全部教えたし、彼ならオリジナルでできる」と、涼しい顔をしていた。私は周囲の大先輩の助けをかりながら、保育のアイデアシリーズNo.15「影絵遊び・影絵劇」を単独で出版することができた。出版物の名前のとおり、私は

演劇台本には自身がなかったけれど「遊び」についてはたくさんの体験を重ねていたので、影絵をあそびとして楽しむという新しい発想でまとめることにした。

この体験は、私の一つの表現形式を定めてしまったようで、絵から文、写真まですべて一人でやり、手描きを重視する独自の表現が生まれた。村上は「よくできたな」と評価してくれたが、その後の影絵講習会は私がやらねばならなくなった。この講習会の体験は、「教えるとはどういうことか?」という問いを含め、「すべてを実践しながら学びとれ」と言う村上流の指導だったと今は考えられる。

私は村上が亡くなるまで教えを受けたが、彼は、公私をはっきり分ける人で園長を務めるのぞみ幼稚園には3度ほどしか行ってはいない。「いや、古い園だから」と言っていたが、私とは児童文化の実践および研究に係る「付き合い」だったようである。

村上は、自分の体力と少子化による都心の幼児数の減少を理由に、幼稚園を辞め、埼玉県戸田市内に引っ越しをした。その後、彼は切り絵などの作品を創作していた。個展に出かけると大変喜んでくれ、私が何をやっているのか、具体的な実践の中身を聞こうとした。「実践からの学びを続けているか」ということなのであろう。「やれることなら何でもやりなさい」が、アドバイスであった。

私は幼児造形を専門研究する方向に傾斜したので、「子どもと劇」というテーマはその周辺となってしまう、しばらく村上の著作を読み返すことがなかった。ところが、村上の御遺族から蔵書の処理について連絡があり、図書を預かることになってしまった。私は本校大学院でも造形教育の担当をしていたが、変わって児童文化を受け持つことになった。もともと私は、児童文化と幼児造形の接点のところを実践研究していたので、研究実績そのものを共通にとらえることができたようである。しかし、授業内容を考え、資料をそろえることに時間がかかり、村上の著書を整理することすらできなかった。(著書の全体を手元に置くことができない状況は今も同じだが)そして3年がたち、ようやく基本図書の整理と一部手書き原稿の読み解きを開始した。今回の小論は、村上幸雄研究の序にすぎない。戦前戦中、戦後をとおして日本の幼児教育の「男性」教育者として、また、児童文化研究者、子どもと劇の創作者としての全体像をおおまかに描こうという試みである。

第一章 村上幸雄の蔵書目録

村上には自室にびっしりと本を並べていた。おそらく自著のすべてを見えるように整理してあったと思われる。また、著作のために必要な図書もまとめて棚におさめられていた。教育、および児童文化関係の図書とほぼ同量あったのがキリスト教関係の図書だった。しかしこちらは私の能力外のものなので、預かることはさけた。本以外の原稿は、袋に収められて、びっしり棚に入っていた。袋の表には、内容を示す記述があったのだが、中身と一致しないものがあり、年代を示すことが難しい状況だった。まだ、すべての確認が終わっていないがおそらくは20数年たって開くものばかりで、本や紙の修繕をしながらの整理となった。以下、現段階での自著(単独、共著を含む)と参考図書のリストを示す。このリストはまだ不完全で本の所在、内容確認を終えたにすぎない。したがって年代順にナンバーを振ったものではない。

村上幸雄

NO.	題	作者	出版社
1	シートン動物童話 ぎざ耳兎	唐澤 道隆 (内山 賢次 次)	フタバ書院成光館 S.17
2	きかんしゃサブローのはなし —交通機関の話—	高橋 壮之 著 大槻 きよし 絵	ポプラ社 S.44 (1969)
3	最近の教育哲学	広島文理科大学教授文学博士 長田 新 著	岩波書店刊行 S.13
4	指導者のための 「劇作りの本」	社団法人 日本児童演劇協会	1977
5	子どもポエムの展開史	弥吉 管一 編者	教育出版センター
6	アンデルセン研究	日本児童文学学会編	小峰書店
7	園の年中行事	富永 正 監修 奈良女子大学幼稚園編	ひかりのくに
8	日本ふしぎ探検 2. 関東/3. 中部	浅井 得一 (玉川大学教授・文学博士) 植田利喜造 (東京教育大学助教授・理学博士)	小峰書店
9	幼児に聞かせたいお話12ヶ月 ③	新幼児童話研究会編	ひかりのくに
10	自由からの逃走	エーリッヒ・フロム 日高 六郎	創元社
11	桃太郎の母 ある文化史的研究	石田 英一郎	講談社
12	家庭の精神衛生	堀 要	黎明書房版
13	日本の教育政策	OECD教育調査団 深代 惇郎 訳	朝日新聞社
14	教育についての対話 おとなはみな子どもの時を忘れてる	園部 三郎	音楽之友社
15	くろねこ ミラック	茶木 滋	ペンギンどうわぶんこ
16	できる子供 できない子供 (脳髓の発達と教育)	九大教授 中 倍三 著	慶應通信 (株)
17	遊びの教育的役割	柴谷 久雄 編著	黎明書房
18	江南の瓜	富田 鷹子 句集	草韻新社
19	絶望の教育危機	京都大学教授 勝田 吉太郎	日本経済通信社
20	新入学児童	長島 貞夫	金子書房
21	「甘え」の構造	土居 健郎 著	弘文堂
22	知的冒険としての人形劇 (オブジェクト・シアターへ)	ヘンクリ・ユルコフスキ 加藤 暁子 訳	新樹社
23	わが町のモダン建築	INAXギャラリー	(株) INAX
24	えほんをつくる (シリーズ5・子どもとつくる)	柄折 久美子	大月書店
25	豆本をつくる (シリーズ・親子でつくる)	岡野 暢夫	創和出版
26	国立モスクワ中央人形劇場1979	(株) 中央放送 大井 数雄	麴町美術印刷
27	らくだの耳	長尾 豊	厚生閣 版 S.16
28	科学方法論	文学士 戸坂 潤 著	岩波書店
29	親と教師に語る (子供の世界とその導き方)	ホームア・レイン 著 小比木 眞三郎 訳	日本評論社 版
30	子どもをどう導いたらよいか (乳幼児編)	肥田野 直・仁科 弥生 著	大日本図書
31	演劇は学校で何ができるのか —実践的演劇教育論—	柴崎 明	(社) 日本児童演劇協会
32	86 日本の人形劇	日本ウニマ (国際人形劇連盟日本センター)	

森田 浩章

NO.	題	作者	出版社
33	幼児教育法講座 (言語)	監修 野地 潤家 編著 芳賀 純・中西 昇	三晃書房
34	3・4・5歳児の 遊びを中心とした保育計画	豊田 君夫・豊田 綾子	黎明書房
35	こま同人代表作選集	児童劇脚本研究会こまの会	
36	翠 児童劇脚本集 第12集	日本児童劇作の会 みどり会	
37	造形あそび (うごくあそび)	佐藤 涼 著	星の環会 刊
38	「児童演劇地方巡回公演」 30年のあゆみ	(社) 日本児童演劇協会	
39	強い子を育てる	城戸 幡太郎・金沢 嘉市・平湯 一仁 編	子どもの文化研究所
40	心のはたらき	相良 守次 編	大日本図書
41	子どもの思考のはたらき	滝沢 武久 著	現代心理学ブックス
42	知能の心理学	ジャン・ピアジェ 波多野 完治・滝沢 武久 訳	みずぶつくす
43	心理学入門	宮城 音弥 著	岩波新書
44	子供!	スタジオ・アヌー編	晶文社
45	おもちゃと遊具の心理学	J・ニューソン E・ミューソン 著	黎明書房
46	日本及日本国民之起源	小谷部 全一 著	厚生閣
47	ハンガリーの音楽教育	シャンドル・フリジェシ 編	音楽之友社
48	こどもの集団・遊び・音楽	コダーイ芸術教育研究所 編	明治図書
49	みんなで遊ぶてぶくろ人形・テーブルシアター	長縄 泰子・石原ひとみ 共著	フレーベル館
50	幼児教育法 言語 (理論編)	玉上 琢彌 監修	三晃書房
51	人形の国のガリバーさん —チェコの人形劇に学んで—	加藤 暁子 著	中公新書
52	保育のアイデアシリーズ 19 手作り紙芝居	紙芝居を作る会	童心社
53	大脳生理学	E・マルデルシュテイン 著 林 藤 監修 工藤 精一郎 訳	講談社
54	ひとりっ子 —自立心をどう育てるか—	横浜国立大学助教授 依田 明	光文社
55	ことばとこころ	川本 茂雄	岩波新書
56	フロイト その思想と生涯	ラシエル・ベイガー 宮城 音弥 訳	講談社 現代新書
57	童話の作り方	福田 清人	明治書院
58	幼年の文学	周郷 博・興田 準一 篇	国民図書
59	児童文学と文学教育	鳥越 信 著	牧書店
60	日本の児童文学	菅 忠道 著	大月書店
61	児童文学概論	上 笙一郎 著	東京堂出版
62	小川未明児童論 —進歩的ロマン主義の世界—	高橋 美代子	新評論
63	文学教育入門	西郷 竹彦 著	明治図書版
64	3歳から6歳までの絵本と童話	鳥越 信・森久保 仙太郎 著	誠文堂新光社
65	新修 児童文学論	坪田 譲治	共文社
66	文学の教育	西郷 竹彦	黎明書房
67	文学教育 児童文学の理論と作品 第1集	文学教育研究会	
68	世界児童文学事典	秋田 雨雀 監修	共同出版社
69	新選日本児童文学 1 大正編		小峰出版
70	新選日本児童文学 2 昭和編		

村上幸雄

NO.	題	作者	出版社
71	新選日本児童文学 3 現代編		小峰出版
72	日本児童文学全集 1 童話編		河出書房
73	日本児童文学全集 2 童話編		
74	日本児童文学全集 4 童話編		
75	日本児童文学全集 5 童話編		
76	日本児童文学全集 6 童話編		
77	日本児童文学全集 7 童話編		
78	日本児童文学全集 10 童話編		
79	児童文学概論	福田 清人・原 冒 共著	建帛社
80	日本の児童文学作家 ①		明治書院
81	日本の児童文学作家 ②		
82	日本の児童文学作家 ③		
83	児童文学とは何か		
84	児童文学と社会		
85	日本児童文学史の展間		
86	岡本良雄 童話文学全集 1	坪田 譲治 監修	講談社
	岡本良雄 童話文学全集 2		
	岡本良雄 童話文学全集 3		
87	子供のための劇輯 じんごんがん	石黒 つぎ子 著	昭和出版
88	幼児劇集 はるのひよこ	村上 幸雄 編	フレーベル館
89	人形劇12カ月	新人形劇研究会 編	家政教育社
90	新編 日本児童劇作家協会 中学校劇集 第2巻		泰光堂
91	新選 日本学校劇集 小学・初級編	日本児童劇教会	実業之日本社
92	新選 日本学校劇集 小学・中級編		
93	新選 日本学校劇集 中学編		
94	校内放送365日 二学期用	校内放送研究会 編	
	校内放送365日 三学期用		
95	小学 学校劇全集 二年用	日本学校劇教会 編	小学館
96	小学 学校劇全集 四年用		
97	日本児童劇全集 1		小学館
98	日本児童劇全集 2		
99	日本児童劇全集 3		
100	日本児童劇全集 4		
101	中学校用 校内放送台本集 上巻	日本児童演劇協会	実業之日本社
102	中学校用 校内放送台本集 下巻		
103	小学校用 校内放送台本集 1学期	日本児童演劇協会	実業之日本社
104	小学校用 校内放送台本集 2学期		
105	小学校用 校内放送台本集 3学期		
106	小学 学校劇五十選	日本児童劇作家協会 編	あかね書房
107	中学 学校劇五十選		
108	児童生活研究		S.16 小学館
109	児童問題	野口 樹々 著	三笠全書
110	児童文化 上	城戸 幡太郎・波多野 完治・百田 実治	西村書店
111	児童文化 下		

森田 浩章

NO.	題	作者	出版社
112	子どもの本	西郷 竹彦 著	実業之日本社
113	子どもと文学	石井 桃子 他	福音館
114	児童文学の展望	日本児童文芸家協会 編	角川新書
115	児童文学と児童読物	ア・エス・マカレンコ	新評論社
116	児童文学への招待	鳥越 信	くろしお出版
117	児童の精神分析	霜田 静志 著	誠文堂新光社
118	児童文化論	成徳大学教授 滑川 道夫 著	東京堂出版
119	訂改 児童心理学	※1 青木誠四郎 著	東京賢文館 発行
120	村の月夜	貴司 悦子 著	文学案内出版
121	時計のない村	小川未明全集 第2巻	フタバ書院
122	つばめのやくそく	関 英雄	改元社 刊
123	パパはのっぽでボクはちび	平塚 武二	コスモポリタン社
124	児童文化論	国語教育学会 編	岩波書店 刊行
125	心理学的散歩	波多野 完治	厚生閣
126	童謡覚書	興田 準一 著	天佑書房 版
127	子供の道徳	波多野 完治 著	刀江書院 刊
128	子供の自治能力	松永 健哉 著	刀江書院 刊
129	幼児の言葉	興田 準一 著	第一書房
130	少国民文学試論	滑川 道夫	帝国教育会出版部
131	児童文学の理想	古谷 綱武	帝国教育会出版部
132	幼児教育論	※2 城戸 幡太郎	東京賢文館 蔵版
133	子供繪巻の指導	中西 良男 著	東京弘道閣 発行
134	児童生活の実能	日本青少年教育研究所 編	朝倉書店 刊
135	子供の発達心理	波多野 勤子 著	刀江書院 刊
136	芸術教育	羽仁 説子・周郷 博 著	牧教育新書
137	児童藝術學	外山 卯三郎 著	東京建設社 刊行
138	児童文學論	坪田 譲治 著	明書院 刊
139	子供への構想	興田 準一	帝國教育会出版部
140	繪本の研究	牛島 義友・矢部 信一 共著	共同公社出版部 刊
141	新児童文學理論	横本 楠郎 著	東京東宛書房 版
142	童話及び児童の研究	松村 武雄 著	東京 培風館
143	教育的応用を主としたる童話の研究	巖谷 小波 序 桶口 勘治郎 序 蘆谷 重常 著	東京 勤業書院
144	青年心理学	※3 青木 誠四郎 著	東京 賢文館 刊行
145	新しき児童文学の道	小川未明	フタバ書院光成館
146	プロレタリア童謡講和	横本 楠郎 著	紅玉堂 版
147 ～ 149	新治童文化 第一冊・第二冊・第三冊・第四冊		有光社
150	子供の世界 児童文化の諸問題	百田 宗治 著	有光社
151	桃太郎主義教育新論	巖谷 小波 著	東京気賢文館蔵版
152	新児童文化 季刊児童文化研究誌 第二冊 新児童文化 季刊児童文化研究誌 第5集		國民図書刊行会
153	影絵遊びからファンタジー影絵劇まで	※4 村上 幸雄	黎明書房
154	紙ねんどあそび	村上 幸雄	岩崎書店
155	教育と子どもの文化活動 親と教師のための児童文化講座4		弘文堂 刊

村上幸雄

NO.	題	作者	出版社
156	3・4・5歳児の運動会・野外ゲーム	日本創作ゲーム協会 編著	黎明書房
157	総合保育資料集 一学期	日本幼児劇の会	黎明書房
158	総合保育資料集 二学期		
159	総合保育資料集 三学期		
160	総合保育資料集 二学期	日本幼児劇の会 ×2	三光書房
161	子どもの心をつかむか 親と教師のための児童文化講座3		弘文堂 刊
162	人形劇とペープサート脚本集	村上 幸雄 著	黎明書房
163	子どもと一緒に楽しむなぞなぞ・学習クイズ (中学年)	石田 泰照 編	黎明書房
164	子どもと一緒に楽しむなぞなぞ・学習クイズ (高学年)		
165	優等生 黄昏のドナウに死す	横山 健 自選脚本集	椰子の葉社
166	母の友 幼い子を持つおかあさん、おとうさんに、子どもにかかわるすべての人に		
167	学級づくりアイデア事典 低学年編	重松 鷹泰 監修	黎明書房
168	学級づくりアイデア事典 中学年編		
169	学級づくりアイデア事典 高学年編		
170	学校行事アイデア事典	村上 幸雄・吉岡 たすく 編著	黎明書房
171	運動会アイデア事典	佐々木 久吉 監修	黎明書房
172	マイアのたび	いしぐろ つぎこ 著	桃園出版社
173	6つの人形でできる12の人形劇	村上 幸雄・豊田 君夫 著	黎明書房
174	お誕生会のアイデアとお話	村上 幸雄・羽曾部 忠 著	黎明書房
175	歴史5分間話	名取 三喜 他	黎明書房
176	軍手の人形劇場	長縄 泰子 脚本・村上 幸雄	童心社
177	ぐんぐん力のつく学習ゲーム 低学年	東京都小学校演劇教育研究会	黎明書房
178	ぐんぐん力のつく学習ゲーム 中学年		
179	ぐんぐん力のつく学習ゲーム 高学年		
180	臨海・林間学校ハンドブック	校外学習研究会	黎明書房
181	サマーキャンプハンドブック	石田 泰照	黎明書房
182	子どものための5分間話	名取 三喜 他	黎明書房
183	手近な材料でできる人形劇とテーブル劇場	斉田 喬・村上 幸雄	黎明書房
184	人形劇のアイデア	村上 幸雄	黎明書房
185	子ども会12カ月	矢萩 操	黎明書房
197	保育あそび 1	日本創作ゲーム協会 編著	文教書院
186	保育あそび 2		
187	保育あそび 3		
188	なぞなぞ学習クイズ (低学年)	石田 泰照 編	黎明書房
189	楽しい3・4歳児のゲーム	日本創作ゲーム協会 編	黎明書房
190	楽しい5・6歳児のゲーム		
191	楽しい幼児の領域別ゲーム		
192	楽しい幼児の特選ゲーム		
193	楽しい幼児の運動会・野外ゲーム		
194	いつでもできる楽しいゲーム百選	創作ゲームの会	小峰書店
195	たのしい「あそび」	五味 正夫 他	福音館
196	ことばのしつけ方	村石 照三	文化出版局
197	クイズランド なぜだろう 学習1コース	子どもの才能を開発する会 編	
198	クイズランド やってみよう 学習2コース		
199	クイズランド しらべてみよう 学習3コース		
200	クイズランド かんがえてみよう 学習4コース		

NO.	題	作者	出版社
201	クイズランド じょうずにできるよ 創造力1コース	子どもの才能を開発する会 編	
202	クイズランド どうしたらいいのかな創造力2コース		
203	クイズランド ためしてみよう 創造力3コース		
204	クイズランド くふうしよう 創造力4コース		
205	クイズランド なんだろう 知能1コース		
206	クイズランド そのわけは 知能2コース		
207	クイズランド ひとりでとけたよ 知能3コース		
208	クイズランド はてな 知能4コース		
209	新選 楽しい中学校劇 1	監修 阿坂 卯一郎	小峰書店
210	新選 楽しい中学校劇 3		
211	小学生 小さい劇の本 5・6年 II	ちいさい劇の本編集委員会	国土社
212	国語の力を伸ばす 4年生の文学 下	児童文学研究会 編	黎明書房
213	やさしいママへ マミール	S.47.7.1	
214	たのしいおはなし101話 おやすみなさいのお話集 第2集		チャイルド社
215	言語 ことは遊び	村上 昭三 編著	小学館
216	たのしい小学校劇 低学年 (下)	監修 阿坂 卯一郎	小峰書店
217	みんなの学校劇 2年生	監修 栗原 一登	ポプラ社
218	なつのあそび	東京都公立幼稚園教育研究会	

掲載誌他、単行本

219	幼児の指導 1961. 12		学習研究社
220	幼児の指導 1961. 9		
221	月刊 保育カリキュラム '68. 12		ひかりのくに
222	月刊 保育カリキュラム '69. 5		
223	保育のちえ		学習研究社
224	学校劇による小学道徳シリーズ「地球丸はどこへいく」中学年用	学研スライド編集	
225	学校劇による小学道徳シリーズ「四つじのピッポ」中学年用	学研スライド編集	
226	戯曲研究 ※5	戯曲研究会	
227	小波お伽全集 第1巻 怪奇篇 ※6	巖谷 小波	千里閣 刊
228	小波お伽全集 第2巻 少女篇		
229	小波お伽全集 第3巻 短話篇		
230	小波お伽全集 第4巻 芝居篇		
231	小波お伽全集 第5巻 小年篇		
232	小波お伽全集 第6巻 長話篇		
233	小波お伽全集 第7巻 歌謡篇		
234	小波お伽全集 第8巻 少女短篇		
235	小波お伽全集 第9巻 少年篇		
236	小波お伽全集 第10巻 口演篇		
237	小波お伽全集 第11巻 傳説篇		
238	小波お伽全集 第12巻 寓話篇		
239	小波お伽全集 第13巻 對話篇		
240	小波お伽全集 第14巻 教訓篇		
241	親子創意遊戯寶盒 18 紙粘土遊戯		
242	紙ねんどあそび ※7	村上 幸雄	岩崎書店
243	保育専科 昭和50年4月～51年3月	日本創作ゲーム協会 村上 幸雄	(手作り)
244	月刊画劇絵本「みおつくし」81号 しもやけおみみになった らびくん	作 村上 幸雄 画 井口 文秀	(紙芝居) 家庭塾教育研究会

村上幸雄

NO.	題	作者	出版社
245	よいこの十二月月 しもやけ らびくん	作 村上 幸雄 画 久保 雅勇	(紙芝居) 童心社
246	よいこの十二月月 どろんこぐつや〜い	作 村上 幸雄 画 山本 まつ子	
247	ゆたかな心シリーズ どうしてお水をのもうかな	作 村上 幸雄 画 加東 てい象	(紙芝居) 教育画劇
248	楽しい名作童話 家なき子	村上 幸雄 編著	ポプラ社
249	おはなしぶんこ まほうのらんぷ	文 村上 幸雄	ポプラ社
250	ひらがなぶんこ⑩ きいろいふうせん	石黒 つぎ子 編(贈) (おめでとう文のあとに)ともだちだいひょう ・あきりょういち ・おかもと よしお ・むらかみ ゆきお	泰光堂 版
251	発明発見ものがたり いつ・どこで・だれが 二年生 (フレールと子どもたち/むらかみ ゆきお) (ともさまとすもうとり/むらかみ ゆきお)	勝田 守 監修	ポプラ社
252	おはなしプレゼント おはなしの本・えほん 3〜4才用	与田 準一・藤田 圭雄 編集	大日本図書
253	おはなしプレゼント おはなしの本・えほん 4〜5才用	滑川 道夫・滝沢 武久 編集	
254	幼児のためのお話三六五日 4月〜8月 1	東京家政大学教授 上沢 謙二 編	あかね書房
255	幼児のためのお話三六五日 9月〜12月 2		
256	幼児のためのお話三六五日 1月〜3月 3		
257	幼児のための劇あそび三六五日 4	斎田 喬 編	
258	幼児のためのゲームと工作三六五日 5	上沢 謙二	
259	子どもの知恵をのばすお話と遊び	村上 幸雄・篠崎 徳太郎	黎明書房
260	子どもの知恵をのばすねんね話	村上 幸雄・まきごろう	
261	子どもの知恵をのばすママの工夫	村上 幸雄・篠崎 徳太郎	
262	幼児のための童話集	与田 準一	福音館
263	青い鳥 NO.2	村上 幸雄 編集	福音館
264	躍進 1980.6 (心を育てる民話 ごんぞう虫)	村上 幸雄	
265	いいな ママのおはなし	坪田 譲治・松村 康平	黎明書房
266	いいな ママのおはなし 2		
267	日本むかしばなし 宝玉集	児童文学者協会 編	宝文社
268	NHK・民間放送局 放送童話 一年生	古谷 綱武・大蔵 宏之	金の星社
269	ひらがなぶんこ ⑭ こぶたのぼうけん	村上 幸雄 著	泰光社
270	新・おはなし社会科 ③ くらしと林業	村上 幸雄 著	ポプラ社
271	新・おはなし社会科 ⑩ 新聞と雑誌の話		
272	お話の森 11・12月	日本児童文学者協会 編	牧書店
273	童話集 やりぬく力	武田 雪夫	駈々堂
274	逸話でよむ おはなし世界歴史一年・上	日本児童文学者協会	実行之日本社
275	日本厂史逸話集 歴史のひかり 五年生		
276	お話の森 9・10月	日本児童文学者協会	牧書店
277	子どもたちにきかせる話 一日一話	佐藤 義美・与田 準一	福音館
278	幼児の喜ぶお話の本 4〜5才	坪田 譲治・浜田 廣介	大日本図書
279	幼児の喜ぶお話の本 5〜6才		
280	幼児の喜ぶお話の本 3〜4才		
281	ピノキオ	コロディ作 村上 幸雄 編著	ポプラ社
282	高知県幼児保育史一明治・大正・昭和・戦前編	森岡 和子	高知市民図書館
283	幼児の描画指導 レニングラードの幼稚園の実践記録	レニングラード就学前教育室表現活動研究 家集団 著	黎明書房

NO.	題	作者	出版社
284	「ちびくろさんぼ」絶版を考える	大井 教雄・多田 信作 訳 径書房 編	径書房
285	幼児教育を築いた人々 幼児開発協会編	藤 永保・三笠 乙彦 監修	春秋社
286	幼児の発達課題と運動あそび	中 俊博/和歌山大学助教授	れいめい書房
287	年譜 宮澤賢治伝	堀尾 青史	圖書新聞社
288	幼児教育の基本を考える	大場 牧夫	ひかりのくに
289	困った幼児にどうしてなったか	園原 太郎・山下 俊郎	黎明書房 版
290	幼児は保育でどうか変わったか		
291	幼稚園の教育計画	奈良女子大学文学部附属幼稚園 幼児教育研究会	ひかりのくに 昭和出版株式会社
292	幼児教育大系	秋田美子・友松諦導・早川元二・日名子太郎 藤田 復生 (編纂委員)	国土社
293	幼児の人間関係―遊びの観察と指導―	京都教育大学附属幼稚園 幼児教育研究会	福村出版
294	幼児の発達と遊びの姿 (現代幼児教育全集)	西久保 礼造・西本 瑛子 編著	(株)ぎょうせい
295	日本の幼稚園 幼児教育の歴史	上笠 一郎・山崎 朋子	理論社 刊
296	幼児の発達と教育	リュブリンカヤ著・藤井 敏彦 訳	明治図書
297	城戸幡太郎と現代の保育研究 卒寿記念出版	城戸幡太郎先生卒寿記念出版刊行委員会 編	ささら書房
298	青少年文化運動	菅 忠道・東京都教組青少年文化文科会 著	啓隆閣
299	現代の児童文化	深谷 鋼作・横谷 輝・鳥越 信 石子 順・古田 足日・菅 忠道 著	啓隆閣
300	児童文化の現代史 (2冊あり)	菅 忠道 著	大月書店
301	子ども文化 未来へのかけ橋	子どもの文化研究所 編	子どもの文化研究所
302	関係認識・変革の教育/子どもの「ものごと」の見方変え方	西郷 竹彦 著	明治図書
303	児童文化	本田 和子 著	光生館
304	日本の子どもたち 生活と意識	NHK放送世論調査調査所 編	日本放送出版協会
305	日本児童文学 1 特集・絵本と童画	日本児童文学者協会	盛光社
306	日本児童文学 11 特集・幼年童話集 西条 八十追悼		
307	ひろすけ家庭童話文庫 (1) こざるのかけぼうし	浜田 廣介	主婦之友社
308	子どもを見つめて 稲庭桂子 遺稿集	稲庭 桂子遺稿集刊委員会	
309	子どもにとって美とは存在するか	佐野 美津夫	誠信書房
310	大人の時間子どもの時間	今江 祥智	理論社
311	わたしの絵本体験	松居 友	大和書房
312	絵本とは何か	松居 直	エディター叢書
313	子どもと本をむすぶもの	いぬい とみこ	晶文社
314	児童文化論 L. H スミス	石井 桃子・瀬田 貞二・渡辺 茂男 訳	岩崎書店
315	児童文学と教育	マクシム・ゴーリキー著 東郷 正延 訳	新評論社
316	絵本のこと歌のこと	木島 始	晶文社
317	児童文化入門	尾関 岩二	新樹社
318	これだけは知っておきたい保育の禁句・保育の名句	豊田 君夫	黎明書房
319	みがえれ 自由保育	平井 信義・豊田 君夫 著	明治図書
320	幼児の美術	周郷 博・藤沢 典明 著	国民図書
321	我が子の悪徳	ザルツマン原著・	文教書院
322	徳美の我が子	田制 佐重 訳	
323	児童画の秘密―誰にでもできる色彩診断―	浅利 篤 著	黎明書房
324	問題の学校	ニルイ 著・霜田 静志 訳	刀江書院
325	問題の教師 (2冊あり)		

村上幸雄

NO.	題	作者	出版社		
326	幼児保育講座 第一巻	国民図書刊行会			
327	幼児保育講座 第三巻				
328	幼児保育講座 第四巻				
329	幼児保育講座 第五巻				
330	野村芳兵衛著作品集 幼児教育編		黎明書房		
331	倉橋惣三選集 第三巻		フレーベル館		
332	倉橋惣三選集 第四巻				
333	幼児つづき話集 第1集	坪田 譲治・浜田 広介 共編	実業之友社		
334	野村芳兵衛著作品集 幼児教育編	ブライアンウェイ 岡田 陽・高橋 美智 訳	玉川大学出版部		
335	日本児童演劇協会30年史				
336	滝井 純 学校劇選集				
337	対談 朗読文化	大松 幾子 編著	かど創房		
338	賢治と南吉の演劇世界 (2冊あり)	富田 博之	国土社		
339	劇へー からだのバイエル	竹内 敏晴 著	青雲書房		
340	クリエイティブ・ドラマティックス入門 創造への教育	西尾 邦夫	福村出版		
341	演劇と学校	西 一祥	南窓社		
342	新選中学校劇集 一学年	日本演劇協会・児童劇作家協会	ポプラ社		
343	新選中学校劇集 二学年				
344	新選中学校劇集 三学年				
345	楽しく聞かせる学校放送百選	学校放送研究会 著	小峰書店		
346	幼児の劇遊び	小池 タミ子 著	国土社		
347	子供のための創造教育	ジェラルディン・B・シックス 岡田 陽・高橋 孝一 訳	玉川大学出版部		
348	保育のアイデアシリーズ ペーパーサートAからZ ※8	村上 幸雄	童心社		
349	手近な素材でできる人形劇脚本集	村上 幸雄	黎明書房		
350	みんなでできる新しい中学校劇集 I	日本児童演劇協会 編	正進社		
351	みんなでできる新しい中学校劇集 II				
352	みんなでできる新しい中学校劇集 III				
353	小一学校劇と舞踊 1957年版	教育技術連盟 編集	小学館		
354	小六学校劇と舞踊 1957年版				
355	小二教育技術増刊 新作台本 1955年版 劇と舞踊				
356	小二教育技術増刊 新作台本 1956年版 劇と舞踊				
357	小二教育技術 特集 授業の中のほめ方・しかり方				
358	新作学校劇集成 小学編	日本児童劇作家協会 編	宝文社		
359	みんなでできる新しい中学校劇集 I	日本児童演劇協会 編	正進社		
360	みんなでできる新しい中学校劇集 II				
361	みんなでできる新しい中学校劇集 III				
362	年鑑・日本の児童演劇 1980	社会法人 日本児童演劇協会編集発行			
363	日本児童演劇の歩み 70年の年表				
364	年鑑・日本の児童演劇 1981				
365	全国小学校・中学校演劇教育実態調査				
366	日本児童演劇協会受賞作品 学校劇編				
367	年鑑・日本の児童演劇 '82				
368	年鑑・日本の児童青少年演劇 '88				
369	日本の児童演劇の歩み 80年の年表				
370	椎崎篤先生の仕事—中学校演劇と児童青少年演劇と—			社会法人 日本児童演劇協会編集発行	
371	成城・学校劇六十年			北島 晴信	成城学園

森田 浩章

NO.	題	作者	出版社
372	日本の児童青少年演劇の歩み 百年の年表1903～2003	社会法人 日本児童演劇協会	
373	85夏 土佐 第一回全日本子どものための舞台芸術大祭記録集		
374	舞台装置の研究	伊藤 熹朔	小山書店
375	聞き語り 少年演劇の歩み 落合聰三郎著作集 I	社会法人日本児童演劇協会	
376	落合聰三郎脚本選集 落合聰三郎著作集 II		
377	演劇教育六十年 落合聰三郎著作集 III		
378	エッセーとうた 万歩歩かん	栗原 一登	
379	日本児童演劇劇史	富田 博之 著	東京書籍
380	人間はどれだけの事をしてきたか	恒藤 恭 著	日本少国民文庫
381	人間はどれだけの事をしてきたか	石原 純 著	日本少国民文庫
382	人間はどれだけの事をしてきたか	西村 真次 著	日本少国民文庫
383	これからの日本 これからの世界	下村 宏 著	日本少国民文庫
384	人生案内	水村 瀧太郎 編	日本少国民文庫
385	日本の偉人	菊池 寛 著	日本少国民文庫
386	世界の謎	石原 純 著	日本少国民文庫
387	スポーツと冒険物語	飛田 徳州 豊島 與志雄 著	日本少国民文庫
388	文章の話	里見 弴 著	日本少国民文庫
389	世界の名作選	山本 有三 選	日本少国民文庫
390	日本の名作選	山本 有三 選	日本少国民文庫
391	西洋文学選	島崎 藤村 選	日本少国民文庫
392	新作 少年文学選	島崎 藤村 選	日本少国民文庫
393	現代日本文学選	大佛 次郎 選	日本少国民文庫
394	美術による人間形成 / V・ローウェンフェルド 著	竹内 清・堀内 敏 武井 勝雄 共訳	黎明書房
395	胎生論心理学	浜畑 紀 著	黎明書房
396	哲学叢書 心理学	高橋 穰 著	岩波書店
397	図解 心理学	相良 守次 著	光文社
398	児童心理学 A・Bザボロージェツ 著	乾孝校閲 民科心理部会 訳	理論社
399	児童の発達とカリキュラム コロンビア大学教授 アーサー・T・ジャーシルド著	依田 新・正木 正 長島 貞夫 訳	新教育協会
400	性教育の心理学・性の関心をいかに導くか	山下 俊郎・阪本 一郎 武政 太郎	東洋書館
401	みんなの学校劇 一年生	監修 栗原 一登	ポプラ社
402	楽しい劇遊び 上	監修 阿坂 卯一郎	小峰書店
403	楽しい劇遊び 下		
404	発達段階による3・4・5歳児の劇遊び集	豊田 君夫 著	黎明書房
405	おじいさんとくま	浜田 廣介 著	主婦之友社
406	こざるとかげぼうし	浜田 廣介 著	主婦之友社
407	山の子 純太	武内 俊子 著	壮年社
408	子供に読んで聞かせるお話の本 (夏の巻)	民主保育連盟児童文学協会	羽田書店
409	鉛の兵隊	森田 たま	中央公論社
410	人形劇と影絵劇	監修 栗原 一登	ポプラ社
411	茂田井 武 画集		日本童画会
412	別冊 太郎 日本のこころ 絵本		平凡社
413	世界遺産クイズBEST65	石田 泰照 著	黎明書房

村上幸雄

NO.	題	作者	出版社
414	人類の進歩につくした人々	山本 有三 著	日本少国民文庫
415	異常児 ジルベール・ロバン 著	吉倉 範光 訳	白水社
416	ひろすけ童話選集	濱田 廣介 著	文教書院
417	乳幼児精神発達診断法	津守 真・稲毛 教子 著	大日本図書
418	智能測定法	鈴木 治太郎	東洋書館
419	パブロフとフロイト H・Kウェルズ 著	中田 実・堀内 敏 訳	黎明書房
420	乳幼児の心理的誕生 マーガレット・S・マーラー他 著	高橋 雅士・織田 正美 浜畑 紀 訳	黎明書房
421	教育心理学への反省と期待	城戸 幡太郎 著	教育出版
422	二つの世界の子どもたち U・ブロンフェンブレンナー 著	長島 貞夫 訳	金子書房
423	教育心理学	須藤 泰男 著	新光閣書店
424	未来っ子を育てるために	まき・ごろう 著	三晃書房
425	ナースと患者の対話	宇治 正美 著	アーニ出版
426	おはなしの暦 キリスト教児童文化協会	上澤 謙二 編	厚生閣版
427	heartの健康学 一日常生活の心の在り方一	宇治 正美 著	新葉社
428	小さな科学者とともに	みどり幼稚園 著	明治図書
429	ピアジェ・インヘンダー訪日講演集 創造的知能の開発	三嶋 唯義・滝沢 武久 訳	誠文堂新光社
430	子育てに手遅れはない 新しい母の本	北畠 道之 著	朝日新聞社
431		△	
432		△	
433	発明物語と科学手工	廣瀬 基 著	新潮社
434	精神分析の新しい道 カレン・ホルネイ 著	井村 恒郎・加藤 浩一 共訳	
435	人物画による性格診断法	大伴 茂 著	黎明書房
436	別冊 太陽 初山 滋(線と色彩の詩人)		平凡社
437	メルヘンエキスポ 世界のおもしろ絵本展 米国リリー・ライブラリーから		朝日新聞社
438	愛憎 カール・A・メニンジャー 著	古沢 平作 監修 草野 栄三良 訳	日本教文社
439	子どものための美しい国 ヤヌシュ・コルチャック 著	中村 妙子 訳	晶文社
440	見えますか 子どもの心	田中 哲 著	いのちのことは社
441	子どもたちはどこへ	永井 道雄 著	講談社
442	気力と感動を育てる(遊ぶこと、学ぶこと)	岡 宏子・坂元 昂 三浦 朱門・大村 虔一 柳 平彬・大村 はま	金子書房
443	直角心理の研究	青木 庄左衛門 著	雄文閣
444	清水わく村(オエンバッハと子どもたち)	羽曾部 忠 作 高沢 恭子 絵	かど創房
445	児童演劇 S.34. 1. 1		
	児童演劇 S.34. 3. 1		
	児童演劇 S.35. 1. 3		
	児童演劇 S.35. 7		
	児童演劇 S.35. 8		
	児童演劇 S.35. 10		
	児童演劇 S.35. 11		
児童演劇 S.35. 12. 1			
446	学校演劇代表作選 中学選	斉田 喬・青江 舜二郎 宮津 博	日本児童劇作家協会 宝文会
447	楽しい幼児劇	日本児童劇作家協会	ポプラ社

森田 浩章

NO.	題	作者	出版社
448	学芸会の事典	日本学校劇連盟編集	国土社
449	クリスマス劇集	阿貴 良一・村上 幸雄 共編	福音館
450	青い銅鑼 2		児童劇作家集団
451	日本名作学校劇集 1年生	斉田 喬 監修	ポプラ社
452	日本名作学校劇集 2年生		
453	日本名作学校劇集 3年生		
454	日本名作学校劇集 4年生		
455	日本名作学校劇集 5年生		
456	日本名作学校劇集 6年生		
457	世界名作学校劇集 1年生	斉田 喬・久保田 万太郎監修	ポプラ社
458	世界名作学校劇集 2年生		
459	世界名作学校劇集 3年生		
460	世界名作学校劇集 4年生		
461	世界名作学校劇集 5年生		
462	世界名作学校劇集 6年生		
463	名作と伝記の学校劇全集 小学1, 2年用	日本学校劇教会	小学館
464	学校劇シリーズ 二年生の学校劇		
465	学校劇シリーズ 三年生の学校劇		
466	学芸会の脚本と演出 三年生の学校劇		
467	教科連関・演出指導 総合学校劇全集 第1巻 小学1年用		
468	教科連関・演出指導 総合学校劇全集 第4巻 小学4年用		
469	小一教育技術増刊 新作台本1955年版 劇と舞踊 ―あらゆる場合の指導手引―	教育技術連盟	小学館
470	楽しい教育劇 1年生	日本学校劇連盟	国土社
471	楽しい教育劇 6年生		国土社
472	創作 学校劇脚本集	日本児童劇作の会	表現社
473	日本児童劇作家協会 新編 中学校劇集 第1巻	日本学校劇教会	泰光社
474	日本児童劇作家協会 新編 中学校劇集 第3巻		
475	学校劇の手帖	落合 聡二郎・横山 健 編集	誠文堂新光社
476	学校劇事典 日本学校劇協会編		小学館
477	新作 学校劇集成 中学編	日本児童劇作家協会	宝文社
478	よい脚本・たのしい演出 小学学校劇全集 1年用	日本児童劇作家協会	小学館
479	よい脚本・たのしい演出 小学学校劇全集 3年用		
480	よい脚本・たのしい演出 小学学校劇全集 5年用		
481	よい脚本・たのしい演出 小学学校劇全集 6年用	日本児童劇作家協会	小学館
482	青い銅鑼		児童劇作家集団
483	学芸会の劇と舞踊 小2 教育技術1月号付録		小学館
484	学芸会の脚本と実演 小4 教育技術1月号付録		小学館
485	小1たのしい学芸会の題材と運営の研究 教育技術連盟 編		小学館
486	小1学芸会資料集 小1 教育技術連盟 編 付録		小学館
487	小1学級行事ハンドブック 小1 教育技術9月号 付録		小学館
488	校内放送365日 I 学期用	校内放送研究会 編	ポプラ社
489	校内放送366日 2学期用		
490	校内放送367日 3学期用		
491	園行事 お話とあそび・12カ月	子どもの文化研究所	童心社

村上幸雄

NO.	題	作者	出版社
492	日本ふしぎ探検<九州・沖縄> 6	浅井 徳一・植田 利喜造 監修	小峰書店
493	日本ふしぎ探検<北海道・東北> 1		
494	国語の力をのばす 2年生の文学 上	児童文学研究会 編	黎明書房
495	子供のための新しいお話十二カ月	治童芸術研究所 編	ひかりのくに
496	ふしぎの国日本再発見 <二冊>	村上 幸雄 著	黎明書房
497	忘れられた大阪の児童文化	畠山 兆子	大日本図書
498	子どもの喜ぶホラー&ミステリー72話	石田 泰照 編著	黎明書房
599	やってみよう フランネル・シアター	村上 幸雄 著	黎明書房
500	たのしいオペレッタあそび ①	江原 滋樹・須川 久 中野 雅之・村上 幸雄 著	労働教育センター
501	たのしいオペレッタ	江原 滋樹・須川 久 中野 雅之・村上 幸雄 著	鳩の森書房
502	つくって演じるてぶくろ人形劇 パベットランド	子どもの文化研究所 編集	椋の木社
503	よい子とかあさんの365日 2	児童教育研究所 編	
504	(社) 日本児童演劇協会50年史		
505	日本のこころ 2年生		小峰書房
506	幼年童話12カ月 3	児童文学者協会 編	
507	幼年童話12カ月 5		
508	幼年童話12カ月 6		
509	新・おはなし社会科 ③くらしと林業	村上 幸雄 著	黎明書房
510	新・おはなし社会科 ⑩新聞と雑誌のはなし		
511	子どもが息をのむこわい話・ふしぎな話 ①	石田 泰照 編著	黎明書房
512	子どもが息をのむこわい話・ふしぎな話 ②	石田 泰照 編著	黎明書房
513	子どもが息をのむこわい話・ふしぎな話 ③		
514	手軽に上演できる人形劇とペープサート脚本集	村上 幸雄 著	黎明書房
515	子どもの喜ぶ40のむかしばなし	村上 幸雄 著	黎明書房
516	子どもの喜ぶことわざ3分間話	村上 幸雄・石田 泰照 著	黎明書房
517	たっちゃんは新聞記者 ―新聞・雑誌の話―	村上 幸雄 著	ポプラ社
518	よっちゃんの大旅行 ―林業の話―		
519	保育童話II お話集	村上 幸雄 編	童心社
520	日本ふしぎ探検(近畿) 4	浅井 徳一・植田 利喜造 監修	小峰書房
521	日本ふしぎ探検(中国・四国) 5		
522	教科書に出てくる100人のポケット伝記 ①	村上 幸雄 編	黎明書房
523	教科書に出てくる101人のポケット伝記 ②		
524	教科書に出てくる102人のポケット伝記 ③		
525	教科書に出てくる103人のポケット伝記 ④		
526	幼児のためのポケット童話集(同じ本が4冊)	羽曾部 忠・村上 幸雄・横山 健	黎明書房
527	国語の力をのばす 1年生の文学 上	児童文学研究会 編	黎明書房
528	国語の力をのばす 1年生の文学 下		
529	国語の力をのばす 2年生の文学 下		
530	国語の力をのばす 3年生の文学 上		
531	国語の力をのばす 4年生の文学 上		
532	国語の力をのばす 5年生の文学 上		
533	国語の力をのばす 5年生の文学 下	児童文学研究会 編	黎明書房
534	国語の力をのばす 6年生の文学 上		
535	国語の力をのばす 6年生の文学 下		
536	キンダーおはなしえほん つきのいど 掲載紙		フレーベル館

NO.	題	作者	出版社
537	教育心理 1968.1 掲載紙		日本文化科学社
538	躍進 1980.1 掲載紙		俊成出版社
539	躍進 1980.2 掲載紙		俊成出版社

以上のように、500点を越える図書の大半は自らの著作である。まだ発行年月日を入れることができてはいない。これは、自作の参考に使った本だと考えた図書をよく見開いてみると中に2ページほど本人の文章が入っていたりするので、さらに1冊ごと丁寧な読み込みが必要である。(全著作を1箇所には置けないなどの理由もある) また、本棚ごとの並びに意味があるようだ。

そこで今回は、まず全体像をつかむことを優先し、その内容(童話なのか、演劇の台本なのか、児童文化財のつくり方なのか等)を知るにとどめ、村上の残した「仕事」の大きさを探ることにした。なお、NO.に空白(△印)があるのは、そこに封した原稿があったことを示す。

第二章 村上幸雄と創作

村上幸雄は後年、自分の肩書を劇作家とすることが多かった。彼は、多才な人であった。最初期は、関西時代の文化活動に始まった。東京に移ってからの、のぞみ幼稚園の園長時代には幼児教育の実践を行いながら、岐阜の保育系短期大学で講師を務めた。その前半期には、童話や伝説といった子どもの読み物の方を多く創作している。私が出会ったのは、後半期であり、子どもの文化学校で保育者を対象として教える内容は、影絵劇やペープサートといった幼児向けの劇が中心であった。

童話といえば、活字の文化である。そして少々の挿し絵のついたもの、つまり「活字もの」のイメージである。演劇台本といえば、それは「舞台にて声を出してこそ生きるもの」であり、そこにはずいぶんと違いがある。

しかし村上は、自然と童話創作から劇作の方向に向かう。

この点について、彼の蔵書から小さな新書版の「子どものための5分間話」名取喜三他編、黎明書房版(昭和43年5月20日初版 同43年2月発行)をみると、先に「自然と…」と書いた意味がわかる。この本は、東京都小学校演劇教育研究会が序に「創造性のある子どもを育てる児童文化教育の源となる」とお話集を出した理由があるように、演劇教育の研究を行う先生たちの「お話」集であり、童話から行事、伝記、社会の豆知識に至るまで、90作を集めた本である。話をして聞かせることが目的であり、字を子どもが読むのではなく声を聞くものなのである。

村上の童話やお話は、基本的に音声で生きるものである。この中に「サンドイッチマンと子犬」という小品がおさめられている。指導を受けていたころ、私はこの作品のような小さなエピソードでまとめられた童話を読んでもあまり感動するようなものではないと思っていた。ところが、今になって声に出してみるとほのぼのと心に伝わるものがある。考えてみれば、戦前子どもたちはたやすく本が買える状況にはなかった。一部の裕福な人は、薫り高い児童文化に触れられたが、庶民は貸本屋のかなりどぎつい読み物が得られれば良い方であった。田舎の教師たちは、給料が遅配さ

れ生活が苦しかった。それでもその給料から本を買い求め、学校でお話を語った。いわゆる「口演童話」「教室童話」の世界である。なるほど、お話（童話）は声に出されて生きるものだったのである。（「教師とは 金沢嘉市が拓いた教育の世界」つなん出版より）

村上の童話も、声に出して子どもの耳に届けられるものである。戦後間もなくの頃、街で見かけたサンドイッチマンと捨てられた子犬のふれあいは、声に出すとそのセリフがとてもいきいきとよみがえるのである。村上自身の創作活動が劇作の方向に向かうのは、昭和43年のこの作からもよくわかってくるのだ。

同じく「ひきだしの中の小さな小さなくつのと手がかた」というお話がこの本には入っている。「きょうはおじさんの子どもの頃のお話をしてあげましょうか」から始まるたった4ページ半の小品である。続いて「そんな、むかしのころのお話はおもしろくないって？いや、実にふしぎな話なんだな。まあ聞いてください。」と語りかける。この書き出しからも子ども向け演劇台本に近いと感じられよう。彼が劇作を中心に活動するようになった理由の一つだと思われる。

第三章 村上幸雄と影絵

村上は幼児向けの影絵劇の台本を多数残しているが、台本だけでなく影絵人形の美術も自分で行っている。

私は幼児影絵劇の基礎を彼から学んだのであるが、その影絵人形はたいへんメルヘンチックな像であった。影絵人形は平面である。したがって人形を動かす以上、人物は横向きにする。彼の人形は、いわゆる洋風で、つんととがった小さい鼻ときわめて大きな眼をもつ。戦後の幼児及び児童向け影絵人形は「かかし座」の人形が代表的であるが、日本的な童話を劇に仕上げるにしても何か西洋風なファンタジーに味付けされていた。これが影絵劇に求められるものであったようで、ファンタジックであった。

人形は白ボール紙で作り、黒く塗っておいた。眼や色をつける部分は、カッターナイフで穴をくりぬき色セロファンを貼り付ける。人形は先に述べたように横向きで眼は一つ、手は一本で、足は身体とともに切り抜かれた一本のほかにもう一本作り それぞれ割びょうで止める。手が一本なのは人形の前の方に手を二本つけると影の形がたいへんわずらわしくなるという理由である。したがって、インドネシアの伝統影絵劇の人形とは形式が異なっている。腕は肘の関節がない固定式で、これは単純化したからであろうが、一応手を動かすことが可能である。からくりは割りびょうと輪ゴム、タコ糸を使って仕掛けを作る。ひもを引くと手が下がる、はなすとゴムの力で上がるというものであった。

村上は、幼児のための劇は保育者自らがやるべきと考えていたと思われる。したがってなるべくシンプルな構造にして、道具類もどこでもあるものを使うように心がけていた。照明の電球は「アイランプ」とよばれる250ワットくらいの大型で、これをひとつ使用していた。当時は写真店で現像用に売られており、比較的たやすく入手できた。また、園には視聴覚教育用にスライド映写機がそろえられ始めた頃で、これを代用することもすすめていた。

村上是15分程度の影絵劇を毎月の誕生会やクリスマス会などに上演しようと日本の保育者、幼児教育者に訴えていた。また、村上是影絵人形と同様の形式（紙による平面的な人形）で日本生まれのペープサート（立絵人形芝居）も指導していたが、このことから幼児の演劇教育の実践を多様にひろげようとしていたことがわかる。他にも、全紙大の大きな模造紙（もぞう紙）に絵を描き、仕掛けの紙を貼り付け、めくりながらストーリーを進行する形式もやっていた。この現物も一部保存しているが、古い幼稚園では戦後から昭和30年代までさかんにおこなわれていたようである。

子どもは、親しみのある先生方が演じている方が安心して心から劇を楽しめること、たとえ人形が上手に作られずとも、演じ方が多少ぎこちなくとも、喜んで楽しむことをよく理解していた。この身近な演劇体験の積み重ねが、本物のプロの芸術を見る目も育てるのである。



まとめ

村上幸雄が残した著作および参考図書、原稿を整理し、彼が幼児教育に何を残したか。我々は何を受け継ぐべきかについて、探るべき一つの方向は見つけられたように思われる。彼の児童文化活動は幼児教育から生まれたものであり、その創作は、幼児教育者に伝えられ、子どもに受け渡されるものであった。その内容、手法は、戦後の教師たちが行った限りない子どもへの愛情による手弁当の行為であり、見事な手作りであった。この部分において私は、その継承者である。しかし、このような個々人の努力に依存する幼児教育には限界がおのずと存在する。今後はより正確な資料整理と正しい読み込みが必要であるが、何より若い研究者がこの研究に加わることを望みたい。

- ※1、3 本学、創始の青木誠四郎の著作。
- ※2 財団法人 文民教育協会 子どもの文化研究所 初代理事長。
- ※4 NO.152 以後は村上の作品や序文が入っている場合が多い。
- ※5、6 雑誌の中に NO.226 ～ 242 まで単行本が並べられていた。
- ※7 村上の著作、造形に関するもの。
- ※8 森田の「影絵遊び、影絵劇」と同一のシリーズ単行本。